

ジョイボンド

トラップネンド

Z-1パテ

CONQUEST 110

「トラップネンド」によるパネルの付着物除去、「Z-1パテ」による穴埋め作業、「CONQUEST 110」による肉盛り作業をそれぞれ実演する。



トラップネンドによるパネル表面の付着物除去作業



01 トラップネンドは中目の赤と細目の青があり、塗装面の状況に応じた使い分けが可能。実演では小さな付着物の除去に適した青ネンドを使用する



02 施工個所に水をかける。水をかけることでトラップネンドの滑りが良くなり、作業が楽になる。スプレーボトルの水に中性洗剤を1滴加えると、さらに滑りが良くなる



03 パネルをトラップネンドでこする。付着物が徐々に小さくなり、取り除かれていく



04 トラップネンドが汚れてきたら、汚れた部分を内側にして丸める。そうすることで、新しいネンドに変えずに、作業を続けることができる



Finish ツルツルしたビニール袋などを通して触れると、パネル表面の異物（ざらつき）が除去できていることがよく分かる

トラップネンドの主な特徴

- ・パネルの塗装面に付着した異物を除去することで、ボデーコーティングやワックスの効果を向上させる
- ・鉄粉、塗料ミスト、ピッチやタール、鳥糞、虫、火山灰などを除去する
- ・トラップネンドを開発した古舘忠夫氏はその実績により、米国に本部を構えるIDA（国際ディーテリング協会）から、HALL OF FAME Class of 2023（殿堂入り）に選ばれている

Z-1パテによる穴埋め作業



01 Z-1パテを使用して、パネルの穴をふさぐ。事例はボンネットのウォッシャーノズル穴で行うが、スミージング処理におけるエンブレムなどの穴埋め作業も同様の手順で対応が可能



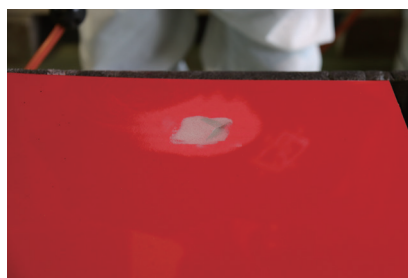
02 主剤10:硬化剤2で混合する



03 ベルトサンダーで作業個所の塗膜をはがし、周囲をテープで養生してから、パテで穴をふさいでいく。穴径が大きい場合は、裏からテープを貼っておくと埋めやすい



04 穴をふさいだらテープをはがし、50℃×30分でパテを硬化させる。夏場は自然硬化も可能



Finish 硬化後、ダブルアクションサンダーで面を出せば、穴埋め作業が完了。その後、ブラサフ、上塗りで仕上げる

Z-1パテの主な特徴

- ・エポキシ系の接着剤をベースとしているため接着能力が高く、亜鉛メッキ鋼板やアルミパネルにも使用可能
- ・収縮がなく、施工箇所周辺のパネルをゆがませない
- ・発泡材やガラスクロスなどと組み合わせることで、オリジナルエアロパーツの作成にも利用可能

CONQUEST110による肉盛り作業



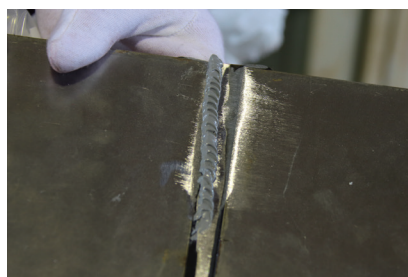
01 高耐熱補修剤CONQUEST110による肉盛り作業を実演。主剤10：硬化剤1で混合する



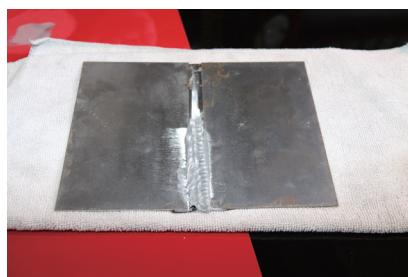
02 混合したCONQUEST110をビニール袋の角につめ、その角の先端を切り、しぼり袋として使う



03 80番以下のペーパーで足付けした鋼板に、CONQUEST110を塗布する



04 塗布の方法を工夫すれば、溶接ビードのような模様を作ること可能



Finish 60℃×30分で硬化させて、作業完了

CONQUEST110の主な特徴

- ・鉄、銅、アルミ、FRP、PP、木、ガラス、石、タイル等に使用できるパテ状接着剤（軟質プラスチック等には使用不可）
- ・接着、穴埋め、肉盛り補修などが可能
- ・アルミニウム粉末が含まれているため、ペーパー研磨～コンパウンド磨き作業で、金属光沢を出すことが可能

塗装面の付着物を取り除き、コーティングの効果を高める

近年、様々な性質を持ったボデーコーティングが登場している。その効果を十分に発揮するためには、ベースとなる塗装面の状態が非常に重要となる。トラップネンドは塗装面に付着した各種物質を取り除くことで、コーティング施工時のトラブルを防ぎ、その効果を高めることができる製品。異物除去後はパネルの手触りが非常に良くなるので、顧客満足度の向上にも寄

与する。

また、Z-1パテは収縮がなく軽量であり、カスタム用途だけではなく自動車補修でも使用が可能だ。CONQUEST110は錆を抑えることが可能なため、下地への使用で大きな効果を発揮する。それぞれ様々な場面で活用が可能なので、ぜひ一度お試しください。



ジョイボンド 代表取締役会長 古舘 忠夫 氏（左）
ジョイボンド 加藤 美男 氏（右）
パワードライヤー 代表取締役 本橋 孝雄 氏